

2021 年度第 4 回運営委員会議事録

日 時：2021 年 11 月 19 日（金） 10：00～11：00

場 所：Web 会議

参加者：細本有理子（成蹊大学）、藤順一（早稲田大学）、田邊豊（亜細亜大学）、久留宮健（法政大学）、西城智架（慶應義塾大学）、吉井香世（専修大学）、杉山友美（関東学院大学）、森浩生（玉川大学）

事務局：水上裕子、島田貴司、佐々木綾花（立正大学）

オブザーバー：宮澤小野花（専修大学）、湯浅知二（亜細亜大学）

※順不同、敬称略

議事概要：

1. 2021 年度オンデマンド研修報告（資料 01）

資料に基づいて説明が行われた。10 月末で修了した雑誌コースは応募が 16 名であったが、11 月より開講している図書コースは 31 名の応募があった。内訳を見ると関東を中心に東北や甲信越、北関東等、遠方からの応募も見られる。25 名の定員を超過したものの IAAL に柔軟に対応いただいている。開講期間は 2021 年 11 月 4 日（木）～2022 年 2 月 2 日（水）である。

2. 2021 年度研修会実施経過報告

研修委員長を中心に 10 月 25 日（月）に実施され、形式は研究講演会同様、オンラインおよびオンデマンドを併用した。コロナ禍およびコロナ後に向けた取り組みをテーマに講演が行われ、東地区のみならず西地区加盟館にも視聴いただいた。

3. 2021 年度研究部運営委員会日程及び協会スケジュールについて（資料 03）

資料に基づいて説明が行われた。2021 年の予定はおおむね確定している。部会長校主催の研修会（事務長会・管理職研修）は次年度に開催予定である旨指摘がなされた。

4. 2022 年度運営委員会の実施方法について

今年度は Web 会議ツールとして Zoom を使用し、開催通知や議事録についてはメールを使用している。次年度以降の資料保管方法について、クラウドサービス（Office365 や Google ワークスペース等）の利用に向けた検討をブレイクアウトルームに分かれて行った。

以前より資料の整理及びデジタル化に関する提案は挙がっており、紙媒体の継続的な資料保存が困難であることから、クラウドを使用したデータ管理が望ましい点は共通認識である。使用ツールについて、事務組織として Office365 を活用している大学が多数あり、学生との連絡手段では Google やスラッグを活用している大学も見られた。運用に際した懸念事項として、①個人情報の管理、②閲覧および編集権限の付与、③アップロード業務の担当所管、④システムトラブル対応とサポート体制の確立、等が挙げられた。運営委員会や研修委員会の議事録等は既に HP への公開がなされている点から、個人情報の詳細と

私立大学図書館協会東地区部会研究部

しては講演会や研修会の参加者名簿等が挙げられる。研究部資料の電子化については、東地区部会の予算から算出しクラウド上へのアップロードを進める旨提案がなされた。

まずは東地区部会として次年度以降の運用を進めたうえで、私図協全体への拡大を検討する方向である。ドメインの使用についてはサブドメインであれば実現の可能性が高い旨意見があった。

5. 2022年度研究分科会について（資料05）

前回に引き続き、研修分科会および研究分科会の次年度以降の新たな体制に関してブレイクアウトルームに分かれて検討を進めた。

6. その他

なし

配付資料：

資料 01	東地区部会 オンデマンド研修受講状況（地区ブロック別）
資料 03	2021 私大図協スケジュール 20211119
資料 05	研究分科会・研修分科会方向性検討たたき台

以上